



教職を目指す皆さんへ そして教師となる皆さんへ

私の初任校は、1学年5クラス規模の都立工業高校でした。全校で、女性教員も女子生徒も3名、女子トイレは1か所でした。当時は校内暴力や暴走族が全盛期でした。3年間持ちあがりクラスの40人のうち1人は重体から生還しましたが、3人がバイクの交通事故で命を落としてしまいました。九九や分数計算は危ういの、バイクのエンジン音で車種をいいあてる生徒達でした。

○男の先生と同じことを言っても生徒は耳を傾けない。どうして。

◇授業に興味はなく、こちらを見ようとさえしない。どうして。

△そもそも「先生」として扱われない。どうして。

このような“どうして”に潰されそうな毎日でした。

転機は、最初の特別指導でした。3日間の家庭謹慎期間を通し放課後に家庭訪問をしました。学校では悪態をついている生徒が、1対1で今後の学校生活や将来の事を話し始めると少しずつ心を開き変容していきました。3日目のあの笑顔と感謝の言葉は忘れられません。（今は家庭訪問は1人では行きません。また家庭謹慎ではなく学校謹慎が基本です）私は、生徒が失敗をした時こそ、叱って不安を煽るのではなく、希望をもてる人生を考える話をします。

中間考査前に生徒がこぼした一言“こんな教科書（A5判の簡易教科書/普通科高校は一般的にB5判）恥ずかしくて広げられない”に、はっとさせられました。学習には興味がないけれど、知りたい・わかりたい気持ちは確実に持っている。学習偏差値としては劣等生かも知れないが、プライドがある。つまり、世の中に背を向けているわけでも、投げやりになっているわけでもない。衝撃的な気付きでした。

皆さんは、当たり前のことと思うかもしれませんがね。当時の私は、自分が勝手に思い描いていた教師像になるうともがき、自分はこんなに頑張っているのにと、目の前の生徒を見ることができずにいたと思います。

【目の前の生徒を見る】生徒のバックボーンを理解し、成長したい・認められたいというプライドのある人として愛情をもって本気で向き合うということです。自分の経験を基準にしないことです。

○人として信頼されないと、耳を傾けてはもらえませんよね。教壇からではなく、生徒をみて、接しましょう。真似でなく、自分のことば・自分のスタイルを探すことが大切です。静かになるまで待つことも。

◇生徒の躓き箇所を知らず、理解度を掴まず、教科書にあるから教えるでは、学ぶ意欲がわきませんよね。

どのように段階を上げていくか。どのように教えるか。教えるレベルを落とすと悟られます。初任校でも教科書章末問題前レベルまでは取り組みました。（中学の同級生の普通科高校の生徒と情報交換して喜んでいました）『わかる・できる』を実感すると、『知りたい・考えたい』が自発的に生まれます。

教科指導は、信頼を築く最強ポイントです。

△自分の気持ちだけ、理想だけを話し押し付けているのでは、敵となってしまいます。認められない・受容されていないなど自己肯定感がないことが、嫌悪感や不満を増やすのです。教壇に立った日から、職として“先生”と称されても、「先生」にはなれません。生徒が育ててくれるのです。

共に成長しましょう。生徒は、自分の鏡かもしれません。

◎想いが熱く強くなると、期待が大きくなると裏切られることがある。どうして。

◎そういうこともあります。やり方・接し方を見直しましょう。『押してダメなら引いてみる』決して生徒から目をそらさずに待ちましょう！諦めではなく、生徒が自分の中で昇華して発するのを待ちましょう。期待しているからこそ待てるのです。【詰め込むことではなく、引き出すことこそ教育】ですから。

後日談：この生徒たちは、今や還暦を目前にしています。あの時ICUから生還した生徒には仲人をし、定期的に開く同窓会では、皆が自分の今を率先して報告してくれます。自立した姿はとても頼もしく、うれしいものです。あの時の苦労は笑い話ですが、毎回とても感謝してくれます。教師は、卒業させてからも、ご褒美がもらえる素敵な仕事です。